

日本人女性の母乳中のプリン体組成に関する研究のお知らせ

帝京大学薬学部臨床分析学研究室では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2022年1月7日～2025年3月31日

〔研究課題〕

日本人女性の母乳中のプリン体組成に関する研究

〔研究目的〕

母乳中のプリン体組成と、授乳期における変化を明らかにすることにより、プリン体組成の違いが乳児期に与える影響について考察します。

〔研究意義〕

母乳は、乳児に必要なほとんどすべての栄養素を含んでいます。そして、母乳は栄養源としてだけでなく、免疫や精神発達などさまざまな機能を有しています。母乳中のプリン体は非タンパク態窒素成分の一つであり、リボ核酸、ヌクレオチド、ヌクレオシド、プリン塩基、尿酸として存在しています。ヌクレオチドは、免疫細胞を活性化する効果が認められ、新生児にとって準必須栄養素となっていますが、プリン体の中で母乳中に最も多く存在する尿酸は、抗酸化作用の副生成物としての報告しかなく、その機能については明らかになっていません。乳児の健康な発育にとって重要な母乳成分である可能性もあります。母乳成分中のプリン体の濃度をきちんと調べることによって、役割の解明に繋がりたいと考えています。

〔対象・研究方法〕

2007年から2018年にかけて、帝京大学小児科に乳児健診に来られて母乳育児をされているお母様より母乳を提供いただき、『研究課題「Wilson病母親が母乳授乳を可能にする方策の検討」』および『研究課題「授乳婦の栄養状態調査と母乳成分の分析、乳児の発育に関する研究」』が実施されました。この際収集した、70名分の母乳を用いて、母乳中のプリン体組成を測定します。

〔研究機関名〕

帝京大学 薬学部臨床分析学研究室、医学部小児科学講座、帝京平成大学薬学部、帝京平成大学大学院健康科学研究科、秋田大学大学院医学系研究科衛生学・公衆衛生学講座

〔個人情報の取り扱い〕

この研究で収集するデータは、すべて入手した時点で個人を特定できない形式に記号化した番号により管理されています。そのため、研究対象から除外してほしい旨の申し出があった場合にデータの削除を行うことはできません。データを含む電子ファイルは、研究者が研究室内の施錠できる場所にて厳重に管理します。本研究で取り扱うデータは本研究の目的のみに用い、他の研究機関に提供することはありません。

〔その他〕

本研究への協力によって費用が発生することや、謝礼を支払うことはありません。

対象となる方で、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者：福内 友子（講師）所属：帝京大学薬学部臨床分析学研究室

研究分担者：金子 希代子（教授）所属：帝京平成大学薬学部

三牧 正和（主任教授）所属：帝京大学医学部小児科学講座

児玉 浩子（特任教授）所属：帝京平成大学大学院健康科学研究科

野村 恭子（教授）所属：秋田大学大学院医学系研究科衛生学・公衆衛生学講座

平池 春子（病院教授）所属：帝京大学医学部産婦人科学講座

山岡 法子（准教授）所属：帝京大学薬学部臨床分析学研究室

住所：東京都板橋区加賀 2-11-1 TEL:03-3964-1211（代表）〔内線 40443〕